

令和 6 年 5 月 2 8 日

川西市議会議長 様

会派（呼称）名 連合かわにし市民の会

議 員 名 福西 勝

※議員名欄は署名又は記名

管 外 調 査 報 告 書

このたび、管外調査をいたしましたので、その概要を下記のとおりお届けいたします。

記

1 調査者氏名

岡留美、中井成郷、福西勝

2 調 査 先

箕面市

3 調 査 期 間

令和 6 年 5 月 2 0 日

4 調査結果の概要

別途資料添付します。

箕面市燃えるごみ専用袋の無料配布視察

令和6年5月20日（月） 13時30分～

川西市はごみの減量に向けてごみ袋を指定袋にし、有料化で進めようとしています。

各自治体は様々な取り組みをされています。

そこで早くから指定袋制度を開始されている箕面市へ視察に行きました。

実施時期

燃やすごみ専用袋は昭和47年4月より紙袋での無料とされており、平成3年度からはポリエチレン製袋を世帯員数ごとに定めた枚数を無料配布し、使い切った世帯は有料で購入いただく制度となっていました。

実施理由

ごみの衛生的収集、収集能率の向上、焼却炉の保全等の理由により昭和46年度に従来のポリバケツ収集から紙袋収集に変更。

その後、市民の負担軽減を図るため無料配布となりました。

現在の制度に変更した効果

平成15年10月に世帯員数に応じた配布枚数を設定し、市民1人当たりの排出量は平成15年度673.49g⇒平成16年度586.09gとなり、-87.4gで割合とすると-14.9%となりました。

世帯数の把握の仕方

毎年6月現在において居住し、住民基本台帳に記録のある世帯に対し、世帯員数に応じた枚数を配布すると条例で定めている。

また住民基本台帳の情報を利用して、毎年8月に引換券（はがき）を世帯主宛に郵送しています。

引換券作成費及び配送料を含む経費の総額

「歳出」

経費総額は93,182,004円で内訳としては消耗品費（燃えるごみ袋代）65,075,392円＋印刷製本費1,069,750円＋通信運搬費3,729,402円＋委託料（販売手数料）23,307,460円

「歳入」

指定ごみ袋販売実績が 62,678,620 円（収支約 3,000 万円です。）

過去の無料枚数と有料枚数の実績

令和 2 年度、40 リットルが無料約 90 万枚、有料約 12 万枚
30 リットルが無料約 298 万枚、有料約 54 万枚
20 リットルが無料約 139 万枚、有料 24 万枚

令和 3 年度、40 リットルが無料約 80 万枚、有料約 27 万枚
30 リットルが無料約 270 万枚、有料約 50 万枚
20 リットルが無料約 131 万枚、有料 25 万枚

令和 5 年度、40 リットルが無料約 90 万枚、有料約 29 万枚
30 リットルが無料約 304 万枚、有料約 44 万枚
20 リットルが無料約 150 万枚、有料 24 万枚

処理券販売店の過不足及び販売店への手数料額について

市内 89 店舗、市外に 4 店舗の計 93 店舗あり販売店不足の要望や苦情は無く、適切に対応されていて過不足はありません。

また無料分ははがき 1 枚 100 円（税抜）。有料分は 10 枚入り 1 袋につき一般廃棄物処理手数料（販売価格）× 7%（税抜）

平成 3 年からは有料分の 30 リットル袋 25 枚入り 400 円。

平成 14 年度までは 30 リットルの袋のみでしたが平成 15 年度から 20 リットルが追加され、30 リットル袋 10 枚入り 600 円（+200 円）、20 リットル袋 10 枚入り 400 円。

更に令和 2 年度からは 40 リットルの袋が追加されました。

知り合いの箕面市民に袋の枚数のことを聞くと「無料分で十分足りる」と聞いていたので有料分の枚数の多さには驚きがありましたので、担当課に確認すると大型ごみとして出すはずの布団やタンス等の縮小できるものは 40 リットル袋に入れて出せることに関しては川西市でも同様のことはできると思いました。

高齢者や乳幼児のおむつ加算は申請式で行われていましたので川西市としての基準づくりの取り組みは必要と認識しました。